

「錦風さん！2敗になったら優勝争いから脱落だからね！」と朝日松理事長。「ここは何とか勝って優勝に望みをつなぎたいね！」と錦風親方。桐壺親方は験を担いで2階でモニター観戦。

注目の横綱同士の一番は五分の立合いで両者がつぶり四つに組み合う。春ノ翔が寄るが若ノ嶋も寄り返し、左に回りながら攻勢に出た若ノ嶋が最後は正面土俵に寄り切って勝った。

「勝った〜！」と大声でガッツポーズの錦風親方。これで若ノ嶋は1敗を守り優勝争いに留まった。

今場所は3横綱1大関が負けない相撲を展開した編りで、3関脇2小結の内、鹿富士が4勝5敗とギリギリ留まっているが、それ以外の4人は負け越しが決まっています。鹿富士も負け越しそうなことになれば、関脇小結全員の負け越しで紙相撲史上初めてのことになる。

残すは2日。十日目は千代鈴対春ノ翔、若ノ嶋対大神楽、千秋楽は千代鈴対若ノ嶋、春ノ翔対大神楽という割りが組まれそうです。

4人ともに優勝の可能性があり、優勝決定戦にもつれ込む可能性もある。果たしてどういう展開となるか、最後に賜杯を手にするのは誰になるのか。紙相撲史上に残る横綱大関の優勝争いとなった千秋楽は4月下旬に開催の予定だ。(錦風)

十両の若雲山は連勝ストップ

八、九日目を開催し、全勝街道を轟進中だった若雲山にとうとう土が付き1敗に後退。これを2敗で蚕国が追

八日目までつけ入る隙も見せず、危なげない相撲を取っていた若雲山が九日目に超刃の寄りに屈し初黒星。「全勝優勝もあるんじゃないの」と親方衆の期待も高まっていたが、



超 刃○(押し倒し)●若雲山

ここは三役経験もある超刃が意地を見せ連勝を阻む結果となった。これで優勝争いも俄然面白くなってきた。

超刃も連勝で3敗を守り、わずかながら優勝線に望みをつないだ。十日目に若雲山が勝って2敗の蚕国が敗れると若雲山の優勝となるだけに有利な立場は変わらぬが、千秋楽までもつれる展開に期待したいところだ。

優勝争いのカギを握る蚕国は桜吹雪と椿富士を退け2敗をキープ。若雲山との直接対決は終わっているため自力での優勝はないが、十日目に千秋楽に勝って若雲山にプレッシャーをかける形に持っているところだ。

富士浪部屋の十両優勝は116回場所の夏雄大まで遡ることが出来るのかにも注目したい。

幕内への昇進争いで東筆頭の黒雲海が八日目に西勢里を押し倒して買えり入幕にあと1勝とした。

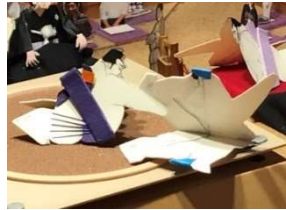
今場所こそはと悲願の昇進をかける桃乃洲は九日目に西の富士を破って6勝目をあげ勝ち越しを決めた。桃山部屋から久々の幕内力士の誕生に向け更に白星を上積みしておきたい。

鶴ノ里が九日目に御嶽灘を寄り切って5勝4敗として残留を決め、残り2日に勝ち越しをかけることになる。序盤の3連敗で心配されたが、勝ち越しまで持つて行ければ来場所以降も期待が持てるだろう。同じく新十両の島内と椿富士も5勝4敗と踏ん張って勝ち越しまであと1勝とした。

一方、十両2場所目の茅ヶ崎が7敗目を喫し、陥落が決定。幕下を2場所通過し十両も順調に駆け上がるものと思われたが、来場所は幕下からの出直しとなる。(勝間田)



西勢里●(押し倒し)○黒雲海



蚕 国○(押し倒し)●椿富士

幕下は磯日丸が洪野か

幕下は四日目をを行い、磯日ノ丸と洪野が勝って千秋楽に優勝をかけることとなった。磯日ノ丸はすでに十両返り咲きを決めている鹿麒麟を左差しから寄る相撲で4連勝。3度目の再十両をかけることになるが確実に昇進するにはあと一勝の小兵の活躍をどう捌くかが優勝を勝ち取る鍵となるだろう。

もう一方は洪野と逆馬山の一番。両者とも三日目までの決まり手がついて、逆馬山は三日目に優勝候補に上り勝っている。互角の立ち合いから先に攻めた逆馬山が右からのど輪を差し込む形に。それを洪野が押し倒されぬように堪えながら土俵を左に回りながら差す態勢を作って、最後は寄り切って勝負がついた。

千秋楽決戦は磯日ノ丸と洪野で争われることになったが、誰もが予想していなかったであろう両者の対決。果たして優勝を手にするのはどちらなのか、楽しみなどころだ。(山里)

異才十勝桜、惜しまれつつ廃業

山桜部屋の十勝桜が四日目で負け越し、今場所限りで廃業となった。世界された先代山桜親方の最後の愛弟子として長く土俵に上っていたが、今場所千秋楽が最後の土俵となった。

136回場所初土俵、最高位幕下14枚目。差されてからの逆転の上手投げは圧巻。記憶に残る力士で春日根親方の大のお気に入りだ。



逆馬山●(寄り切り)○洪 野



鹿麒麟●(寄り切り)○磯日丸

三段目、序の口

三段目は松山と自力岳、序二段は戸田と強久根、序の口は紅の華と黒盾が4連勝を果たした。春日根勢がすべての段で4連勝しており、全勝の横綱の勢いがそのまま弟子達にも乗り移ったようだ。

三段目では錦風親方曰く未完の神器、初土俵では付出した序二段で優勝している松山が二枚目での4連勝。大松戸部屋としては116回場所の木田以来の幕下昇格はほぼ確実だが、優勝を手土産としたところだ。

対する自力岳も155回場所序二段優勝している実力者。今場所も優勝すれば一気に幕下昇格の可能性も出てくる。

また、秋田部屋の千曲海が白星をあげ四日目に勝ち越しを決めた。もう一つ白星を重ねてさらに上を狙いたい。

序二段は松山と148回同期入門の戸田が4連勝。大松戸部屋の2段制覇なるか。これに立ちほはかかるのがやはり春日根勢の強久根。先場所最下位の序の口通過だったが、今場所は大变身。難敵火百を破っての4連勝だ。

序の口では共に初土俵の春日根紅の華と鹿賀乃戸黒盾の全勝対決となる。これまでの相撲内容から見ると紅の華の左差しが圧倒することが予想される。(鹿賀戸)



碧 錦●(寄り切り)○戸 田



千曲海○(押し倒し)●慳 塚



木 幡●(寄り切り)○松 山